

平成21年6月23日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2007～2008年度

課題番号：19800058

研究課題名（和文） 先史時代における貝塚出現期の年代学的研究

研究課題名（英文） Reserch on the 14C Dating to Appearance of Shell Midden  
At Prehistory研究代表者 遠部 慎 (ONBE SHIN)  
北海道大学・施設部・特定専門職員  
研究者番号：50450151

## 研究成果の概要：

本研究では、西日本における貝塚が出現する時代、つまり縄文時代早期から前期を中心とした年代研究を推し進めた。当該時期の年代的な枠組みを構築するため、各地のサンプルの年代測定を実施し、それらについて報告をまとめた。

特に、西日本の縄文時代草創期後半から縄文時代早期の年代測定を推し進め、西日本における貝塚出現期にあたる押型文土器や貝殻文円筒形土器の実年代については大まかな見通しを得ることが出来た。さらに、瀬戸内海の縄文時代早期・前期の貝塚群の年代測定を進め、縄文時代早期のハイガイ貝塚群以前とされるヤマトシジミ貝塚群にも年代差があること、魚類を伴う本格的な貝塚群は前期後半以降にいちづけられる可能性が高いことがわかった。本研究の結果、西日本における出現期貝塚を考察する上で重要な定点となる年代値を多数得ることができた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,320,000	0	1,320,000
2008年度	1,350,000	405,000	1,755,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,670,000	405,000	3,075,000

研究分野：考古学・文化財科学

科研費の分科・細目：文化財科学・文化財科学

キーワード：考古学、西日本、AMS年代測定、貝塚出現期、貝類

## 1. 研究開始当初の背景

西日本では、縄文時代早期貝塚の実際の年代を知る手掛かりは少なく、これまでの報告

例としては、瀬戸内では1950年代のデータ(H.R.Crane & J.B.Griffin 1956)、九州では1970年代のデータ(坂田 1972)くらいである。

しかも、貝類の年代測定は日本各地で行われているが、貝種を明示していないものが多く、あったとしても年代値の議論のみで(野内1990)、貝種ごとの安定同位体比などは記載されていない。また、酸素同位体比の分析なども行われているが、年代が伴っていないケースが多く、年代的な指標となる例が少なかった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、先史時代における多様な貝類利用のあり方を炭素年代測定法を用いて整理することによって、先史社会を考古学的に復元することである。

主な研究対象である縄文時代は特に、四方を海に囲まれた日本列島で海産資源利用が活発化する時代であり、貝塚形成がはじまったことが知られている。その後現在まで続く日本人と海のかかわりを考える上で重要な時代でもある。

本研究の主な測定対象は、土器付着炭化物および貝類を中心とした縄文時代草創期から前期の年代測定例の蓄積である。それは、日本列島(特に西日本)における出現期の貝塚の年代測定例がほとんどなく、各地域における貝塚の出現や貝類利用の開始を考えるうえで判断材料が少ない。また、貝類は山間部(例えば洞穴遺跡)にまでもたらされており、海産物がいつ頃山間部にもたらされたのか、当時の人々の交易や活動範囲を考えるうえでも重要な指標となるはずである。

## 3. 研究の方法

縄文海進期の人間活動の地形変化と環境変動、人間活動の変遷などの相関関係を読み解くために、瀬戸内海沿岸を中心とした西日本を中心とした縄文時代前半期の貝塚出土試料の年代測定を行う。

さらに出現期の貝塚の変遷を AMS 炭素 14 年代測定を用いて研究することにより、未だに不明な点の多い縄文海進に伴う貝塚

の形成に関して、年代的な定点を与えることに繋がるはずである。

## 4. 研究成果

研究成果としては、土器の施文具として、貝類の利用がはじまる縄文時代草創期の鹿児島隆起線文土器、瀬戸内海の単発的な縄文早期の貝塚群や、西日本でも貝塚が顕著にみられはじめる早期後半から前期の年代測定サンプルを集中的に測定した。福井県鳥浜貝塚、三重県鴻ノ木・高皿遺跡、鳥取県渡り上がり遺跡、島根県島根大学構内遺跡、岡山県犬島貝塚、熊本県瀬田裏遺跡、宮崎県塚原 C、阿蘇原上遺跡、鹿児島県湯屋原遺跡などでサンプルを収集し、年代測定を行った。

瀬戸内海の縄文時代早期・前期の貝塚群の年代測定を進め、縄文時代早期のハイガイ貝塚群以前とされるヤマトシジミ貝塚群にも年代差があること(礼田崎貝塚→犬島貝塚→黒島貝塚)、魚類を伴う本格的な貝塚群は前期後半以降にいちづけられる可能性が高いことがわかった。

また、山間部において陸産貝類の利用度の低いことを、四国の愛媛県上黒岩遺跡や徳島県古屋岩陰から明らかにした。

鳥浜貝塚は 2/16-3/10 の企画展示(「再発見!鳥浜貝塚資料」於:若狭歴史民俗資料館)と密接に関連しており、測定成果をいち早く研究展示に活かした。2/1-4 の椀の湖遺跡発見 50 周年記念展(於:道の駅きりら坂下)にも本測定成果は用いられた。岡山県岡山市犬島貝塚に関しても、多くの注目を集めた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 18 件)

①遠部 慎・加藤久雄・米田穰・畑山智史

- 2009「羽島貝塚、磯ノ森貝塚の年代学的研究」『倉敷の歴史』19号、pp.1-17、倉敷市（査読なし）
- ②遠部 慎・山内基樹・加藤久雄・角縁 進  
2009「広島県立歴史博物館所蔵資料紹介：岡山県瀬戸内市黄島貝塚」『広島県立歴史博物館研究紀要』第10号、pp.1-27、広島県立歴史博物館（査読なし）
- ③遠部 慎・宮田佳樹 2009「鹿児島市湯屋原遺跡の土器付着炭化物の炭素14年代測定」『鹿児島市立ふるさと考古歴史館年報平成20年度』鹿児島市立ふるさと考古歴史館（掲載決定）（査読なし）
- ④遠部 慎・宮田佳樹 2009「三重県における縄文時代早期土器付着炭化物の炭素14年代」『三重県埋蔵文化財センター年報平成20年度』pp.17-23、三重県埋蔵文化財センター（査読なし）
- ⑤遠部 慎 2009「縄文時代前期西川津式土器の実年代」『木村剛朗さん追悼論集考古学の源流』pp.53-61、木村剛朗さん追悼論集刊行会（査読なし）
- ⑥遠部 慎 2009「貝殻文円筒形土器群の炭素14年代測定」『新東晃一代表還暦記念論集』pp.141-151、南九州縄文研究会（査読なし）
- ⑦遠部 慎・小林謙一・宮田佳樹 2008「近畿地方におけるアカホヤ前後の縄文土器付着炭化物の年代測定」『古代文化』第59巻第4号、pp.43-57、古代学協会（査読有）
- ⑧遠部 慎・宮田佳樹・小林謙一 2008「飯田市美女遺跡の土器付着炭化物の炭素14年代測定」『飯田市美術博物館紀要』21、pp.21-32、飯田市美術博物館（査読なし）
- ⑨遠部 慎・宮田佳樹・増子康眞 2008「岐阜県恵那市内遺跡出土試料の炭素14年代測定」『古代人』68号、pp.71-80、名古屋考古学会（査読なし）
- ⑩村上 昇・遠部 慎 2008「鳥浜貝塚から出土した多縄文土器とその年代測定値」『福井県立若狭歴史民俗資料館館報平成19年度』pp.19-20、福井県立若狭歴史民俗資料館（査読なし）
- ⑪遠部 慎・宮田佳樹 2008「島根県島根大学構内遺跡（10次）出土試料の炭素14年代測定」『島根大学ミュージアム年報平成19年度』pp.23-29、島根大学ミュージアム（査読なし）
- ⑫遠部 慎・熊谷博志・中島直樹ほか 2008「瀬戸内海新発見の縄文時代早期貝塚・犬島貝塚（小野伸コレクション）の報告」『LAGUNA』No.15、pp.25-32、汽水域研究センター（査読有）
- ⑬遠部 慎・宮田佳樹 2008「黄島貝塚出土貝類の年代測定」『同志社大学歴史資料館館報』第11号、pp.17-22、同志社大学歴史資料館（査読なし）
- ⑭遠部 慎・宮田佳樹 2008「宮崎県における土器付着炭化物の炭素14年代測定—縄文時代前半期を中心に—」『宮崎考古』第21号、pp.41-54、宮崎県考古学会（査読なし）
- ⑮遠部 慎・宮田佳樹 2008「鹿児島県風呂ノ口遺跡出土試料の炭素14年代測定」『南九州縄文通信』No.19、pp.67-71、南九州縄文研究会（査読なし）
- ⑯遠部 慎 2008「瀬戸内海の縄文時代早期貝塚」『季刊考古学』pp.71-75、雄山閣（査読なし）
- ⑰遠部 慎 2008「犬島貝塚の炭素14年代測定」『犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム第1回研究会・講演会 資料集犬島貝塚の発見』pp.17-22、犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム（査読なし）
- ⑱遠部 慎 2008「アワビの年代学的研究」『日本島嶼学会第10回記念大会』pp.50-52、日本島嶼学会（査読なし）  
[学会発表]（計9件）
- ①遠部 慎・小林謙一・春成秀爾・西本豊弘 2008.5.25「上黒岩遺跡の年代学的研究」『日本考古学協会第74回総会』東海大学湘南キャンパス
- ②遠部 慎・宮田佳樹・小林謙一・坂本稔・西本豊弘 2008.6.15「南九州における縄

文時代草創期から早期の炭素 14 年代測定『日本文化財科学会第 25 回大会』鹿児島国際大学

③遠部 慎・熊谷博志・松本安紀彦ほか  
2008.11.2「瀬戸内海新発見の縄文時代早期貝塚—犬島貝塚の研究—」『第 62 回日本人類学会大会』愛知学園大学歯学部

④遠部 慎・畑山智史 2008.11.30「鹿児島県小崎遺跡の研究」『第 11 回動物考古学研究集会』島根県埋蔵文化財センター

⑤遠部 慎・小林謙一・宮田佳樹 2008.3.8  
「西日本における縄文時代前半期の年代測定」『第 10 回 AMS シンポジウム (ポスターセッション)』東京大学大学院工学系研究科武田ホール

⑥遠部 慎・小林謙一・宮田佳樹 2007.10.8  
「西日本におけるアカホヤ前後の炭素 14 年代測定」『第 61 回日本人類学会大会』日本歯科大学新潟生命歯学アヴィホール

⑦遠部 慎・西本豊弘 2007.12.8「陸産貝類の炭素 14 年代測定—カワニナ類を中心に—」『第 10 回動物考古学研究集会』国立歴史民俗博物館

⑧遠部 慎・宮田佳樹 2007.12.15-16「京都府舞鶴市浦入遺跡の炭素 14 年代測定」『第 10 回関西縄文研究会 (ポスターセッション)』皇學館大學

⑨S.Onbe, Y.Miyata, K.Kobayashi  
2007.10.23 AMS 14C Dating for the First Half of Jomon period in western Japan : Carbonized material adhering to pottery, The 2nd East-Asia AMS Conference Abstracts, Seoul National University  
〔図書〕 (計 4 件)

①遠部 慎 2009「貝類の年代測定」『弥生農耕のはじまりとその年代』 pp.91-99、雄山閣

②遠部 慎・宮田佳樹・小林謙一 2009「年代測定における同定作業—炭化材を中心に—」『縄文

研究の新天地 (続)』 pp.168-175、六一書房

③遠部 慎 2009『先史時代における貝塚出現期の年代学的研究』伯陽印刷、p.80

④遠部 慎・矢作健二 2008「上黒岩遺跡の堆積と年代的考察」『縄文時代のはじまり—愛媛県上黒岩遺跡の研究—』 pp.149-154、六一書房

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

遠部 慎 (ONBE SHIN)  
北海道大学・施設部・特定専門職員  
研究者番号 : 50450151

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし